

# 2020年度鶴岡市農業振興協議会水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、水田面積に占める主食用米面積の割合が約60%で、転作作物としては非主食用米、大豆、枝豆、そばが多く転作の約70%を占めている。

大豆、枝豆、そばについては、近年のゲリラ豪雨や長雨などによる湿害や連作障害により、品質・収量の低下がみられ、安定生産に向けた取組みの拡大が必要となっている。

一方、主食用米の需要量の減少や高齢化等による農家戸数の減少により不作付地の拡大が懸念されることから、非主食用米を含めた転作作物への転換を促進することで、水田機能の維持を図る必要がある。

## 2 作物ごとの取組方針等

市内の約15,000haの水田の活用について、非主食用米を含めた水稲作付面積約11,400haを維持するとともに、産地交付金や水田の汎用化等の基盤整備事業を有効に活用しながら、園芸作物等の生産拡大を図る。

### (1) 主食用米

山形県農業再生協議会から示される「生産の目安」を基本として生産するとともに、需要を意識した米づくりとブランド化の推進を図り、主食用米の主産地としての地位を確保する。

具体的には、有機栽培水稲、特別栽培水稲については、主食用水稲の45%（約4,190ha）を目指して作付けの推進を図るとともに、環境保全型農業を軸とした鶴岡産農産物ブランドの確立を図るため、生産販売の推進方策等について検討を進める。

また、中食・外食ニーズに対応するため、農地集積や直播の拡大・多収品種の導入等による低コスト化を図りながら一定の品質を確保した米の安定生産を進める。

### (2) 非主食用米

主食用米の需要減が見込まれる中、非主食用米を転作作物の中心作物に位置付ける。加工用米、備蓄米の価格動向を見据え、飼料用米、輸出用米の生産と組み合わせ農業所得の増大となるよう誘導する。

#### ア 飼料用米

乾燥調製施設の品種構成を勘案して品種の選定を行いつつ安定生産を図る。

また、耕種農家と畜産農家が協力して行う耕畜連携の取組みを支援することにより、継続的で安定的な稲わら利用を推進する。

#### イ 米粉用米

実需者から信頼される品質を確保し、安定的な生産を推進する。

#### ウ 新市場開拓用米

輸出用米等の新たな用途として需要を発掘することにより、米の需要拡大を図る。

#### エ WCS 用稲

耕種農家と畜産農家が協力して行う耕畜連携の取組みを支援することにより、継続的で安定的な生産を推進する。

#### オ 加工用米

米の主産地として、実需者から信頼される安定的な量と品質を確保する。

#### カ 備蓄米

加工用米との一体的な取組みとし、安定生産を推進する。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

#### ア 麦

取組なし

#### イ 大豆

低コスト生産に向けた作業の効率化や隣接ほ場からの浸透水による湿害軽減を図るため団地化を推進するとともに連作障害の解消に向けた輪作の取組みを進める

#### ウ 飼料作物

耕種農家と畜産農家が協力して行う耕畜連携の取組みを支援することにより、継続的で安定的な生産を推進する。

### (4) そば、なたね

基本技術の励行により品質・収量の安定化を図り、市場や消費者等からの信頼を確立し、産地形成を推進する。

#### ア そば

品質向上を図るため、明渠・暗渠の設置や畝立播種技術の導入により排水対策を進め、高品質・高収量生産を推進する。

#### イ なたね

取組なし

## (5) 高収益作物（園芸作物等）

### ア 枝豆

高齢化等による生産面積の減少が懸念されることから、共選体制の整備等により生産しやすい環境を整備するとともに、補助事業等を活用し機械化体系の推進を図り生産面積の拡大を図る。

また、農薬飛散対策として団地化を推進するとともに、販路拡大に向けたブランド戦略の構築を図る。

### イ ねぎ

排水対策を推進し品質・収量の安定化を図るとともに、春ねぎから冬場に収穫最盛期を迎える市場ニーズの高い軟白ねぎまで周年による作型を拡大し、産地形成の推進を図る。

また、補助事業等を活用し機械化体系の推進、パイプハウスの整備を図るとともに、共選集荷により生産しやすい環境を整備し生産面積の拡大を図る。

### ウ トマト

温度管理や土作り等の技術を改善し、品質・収量の安定化を図る。

また、補助事業等を活用し選別機械やパイプハウスの整備を図り、省力化と生産面積の拡大を図る。

### エ きゅうり

露地栽培及び施設栽培において、品質・収量の安定化を図るとともに、施設栽培においては、長期間の出荷に向けた生産環境の整備を行い、生産面積の拡大を図る。

### オ アスパラガス

排水対策や収穫後の防除対策を徹底し、品質・収量の安定化を図るとともにコンテナ出荷による選別・包装作業の省力化により新規に生産しやすい環境を整備し、生産面積の拡大を図る。

現在の主力である中山間地から平野部へ生産を拡大することにより、長期リレー出荷による有利販売を目指す。

### カ ニラ

鳥獣被害がない品目であることから中山間地での振興を図るとともに、コンテナ出荷による作業の省力化により生産しやすい環境を整備し、平野部での低コスト導入品目として生産面積の拡大を図る。

### キ 花き（トルコギキョウ、アルストロメリア、ストック、きく、ゆり、フリージア）

パイプハウスや機械、暖房機等を活用し周年栽培による花きの生産拡大を図る。

### ク 赤かぶ

伝統野菜として地元企業からの需要が高いことや鳥獣被害が少ない品目であることから、排水対策の推進や雑草・病害虫対策、連作障害回避等を講じながら中山間地での振興を図るとともに、

平野部での低コスト導入品目として生産面積の拡大を図る。

#### ケ キャベツ

排水対策や高温期対策の徹底による品質・収量の安定化を図り、業務用・加工用の実需者との結びつきを強化するとともに、出荷規格の簡素化による労働力と出荷経費の軽減を進め、生産面積の拡大を図る。

#### コ 山菜（わらび、ぜんまい、行者にんにく、うるい）

収穫後の除草対策を徹底し品質・収量の安定化を図るとともに、近年では加工用として国産需要が高まっていることから、中山間地での低コスト導入品目として産地形成を図る。

#### サ さやいんげん

パイプハウスの有効活用を図るとともに、今までの主力であったつる無し品種に加えて、より収量の高いつる有品種の導入を進め、生産面積の拡大を図る。

#### シ なす

地元企業による加工用としての需要が高いことから、販売価格が安定した品目として生産面積の拡大を図る。

#### ス さといも

降雨による湿害に強い品目であることから、平野部から中山間地まで広域にわたり生産拡大を図る。

また、鳥獣被害が少ない品目でもあるため、猿被害の多い地域においても生産面積の拡大を図る。

#### セ ミョウガ

一般的には条件不利地となる日陰のは場が適地となること、また、定植後3年目から毎年収穫が可能となるため安定的に収入を確保できることから、中山間地を中心として生産面積の拡大を図る。

### (6) 畑地化の推進

高収益作物の本作化を進めるため、畑地化により排水改善や作業効率の向上を図る。

### 3 作物ごとの作付予定面積

	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の目標作付面積 (ha)
主食用水稻	9,449.4	9,488.0	9,488.0
慣行栽培水稻	5,423.4	5,064.3	5,064.3
直播栽培水稻	561.8	600.0	600.0
有機栽培水稻	64.7	72.6	72.6
鶴岡 I 型水稻	14.2	20.0	20.0
特別栽培水稻	3,332.8	3,651.1	3,651.1
直播特別栽培水稻	52.4	80.0	80.0
非主食用水稻	1,999.1	2,030.1	2,030.1
加工用米	524.2	537.1	537.1
備蓄米	938.9	920.2	920.2
飼料用米	462.6	477.2	477.2
米粉用米	2.9	2.4	2.4
新市場開拓用米	37.1	59.0	59.0
WC S 用稲	33.4	34.1	34.1
戦略作物（非主食用米以外）	999.4	1,026.0	1,026.0
麦	2.4	5.0	5.0
大豆	968.0	990.0	990.0
飼料作物	29.0	31.0	31.0
そば	515.2	530.0	530.0
園芸作物	1,037.4	1,778.7	1,778.8
枝豆	651.0	680.8	680.8
ねぎ	26.8	32.1	32.1
トマト	13.4	15.3	15.3
きゅうり	6.6	8.9	9.0
アスパラガス	27.3	36.3	36.3
ニラ	2.4	3.4	3.4
アルストロメリア	2.2	3.3	3.3
きく	10.9	16.8	16.8
ストック	1.8	2.7	2.7
トルコぎきょう	2.9	4.5	4.5
フリーズア	0.7	1.1	1.1
ゆり	1.0	1.5	1.5
赤かぶ	47.4	47.2	47.2
キャベツ	15.0	16.3	16.3
わらび	113.7	111.1	111.1
ぜんまい	21.6	24.4	24.4
行者ニンニク	31.6	29.9	29.9
うるい	7.6	7.8	7.8
さやいんげん	2.0	2.2	2.2
なす	22.4	28.7	28.7
さといも	7.1	10.0	10.0
ミョウガ	22.0	22.4	22.4
その他野菜・花木・果樹	626.8	671.9	671.9

※四捨五入の関係で合計が合わない場合があります。

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	枝豆、ねぎ、トマト、きゅうり、アスパラガス、ニラ、花き（トルコギキョウ、アルストロメリア、ストック、きく、ゆり、フリージア）、赤かぶ、キャベツ、山菜（わらび、ぜんまい、行者にんにく、うるい）、さやいんげん、なす、さといも、ミョウガ	園芸作物助成	作付面積（ha）	(2019年度) 821.3	(2020年度) 834.2
2	そば	そば助成	排水対策取組面積（ha）	(2019年度) 469.26	(2020年度) 470
3	大豆	団地加算	団地面積（ha）	(2019年度) 703.56	(2020年度) 780
			作付面積に占める団地割合（%）	(2019年度) 73.7	(2020年度) 78.8
			10a当たりの収量（kg/10a）	(2019年度) 187	(2020年度) 190
4	大豆	団地輪作加算	輪作取組面積（ha）	(2019年度) 379.74	(2020年度) 437
			団地面積に占める輪作取組割合（%）	(2019年度) 54.0	(2020年度) 56.0
			10a当たりの収量（kg/10a）	(2019年度) 187	(2020年度) 190
5	枝豆	団地加算	団地面積（ha）	(2019年度) 369.11	(2020年度) 392
6	飼料用米	耕畜連携助成（わら利用）	耕畜連携取組面積（ha）	(2019年度) 107.57	(2020年度) 120
			対象作物作付面積に占める取組割合（%）	(2019年度) 23.3	(2020年度) 23.0
7	飼料作物	耕畜連携助成（水田放牧）	耕畜連携取組面積（ha）	(2019年度) 0.6	(2020年度) 0.7
			対象作物作付面積に占める取組割合（%）	(2019年度) 2.3	(2020年度) 2.0
8	新市場開拓用米	新市場開拓用米助成	取組面積（ha）	(2019年度) 37.01	(2020年度) 59
9	飼料用米、米粉用米	複数年契約加算	取組面積（ha）	-	(2020年度) 285.36
			取組数量（t）	-	(2020年度) 1,666.5
11	枝豆、ねぎ、トマト、きゅうり、アスパラガス、ニラ	園芸作物助成（面積拡大加算）	前年からの拡大面積（ha）	(2019年度) 52.91	(2020年度) 58
12	ねぎ、トマト、きゅうり、花き（トルコギキョウ、アルストロメリア、ストック、きく、ゆり、フリージア）	園芸作物助成（新規施設作付加算）	新規施設での取組面積（ha）	(2019年度) 0.72	(2020年度) 1.70

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。